

大子町における小規模事業者の

景況調査報告

平成 29 年 1 月～

平成 30 年 12 月

平成 31 年 3 月

大子町商工会

目的：

大子町の小規模企業者の景況感を継続して調査することで、大子町における小規模企業者全体で景況感を共有することを目的とする。

方法：

製造業・建設業、小売・卸売業、サービス業（飲食店等を含む）からサンプルの小規模企業者を約 30 社選び、四半期ごとに景況感の聞き取り調査を行う。聞き取り方法は、直接面接もしくは電話にて行う。

調査期間は平成 29 年 1 月～平成 33 年 12 月までとし、四半期ごとに景況感をまとめ、報告する。

対象事業者：

大子町にて事業を行っている小規模事業者

調査項目：

- ① 売上高、販売単価、粗利益、資金繰り、人材確保、景況感、風評被害について前年度同時期と比較した。
- ② 調査期間における設備投資の有無、および、今後の設備投資の予定を調査した。
- ③ 大子町で事業を行う上で、現在認識している課題・問題点を調査した。

調査属性

製造業（食品加工業を含む）	6社
建設関連業	6社
小売業（卸売業を含む）	9社
サービス業（飲食、観光含む）	10社

事業者の規模

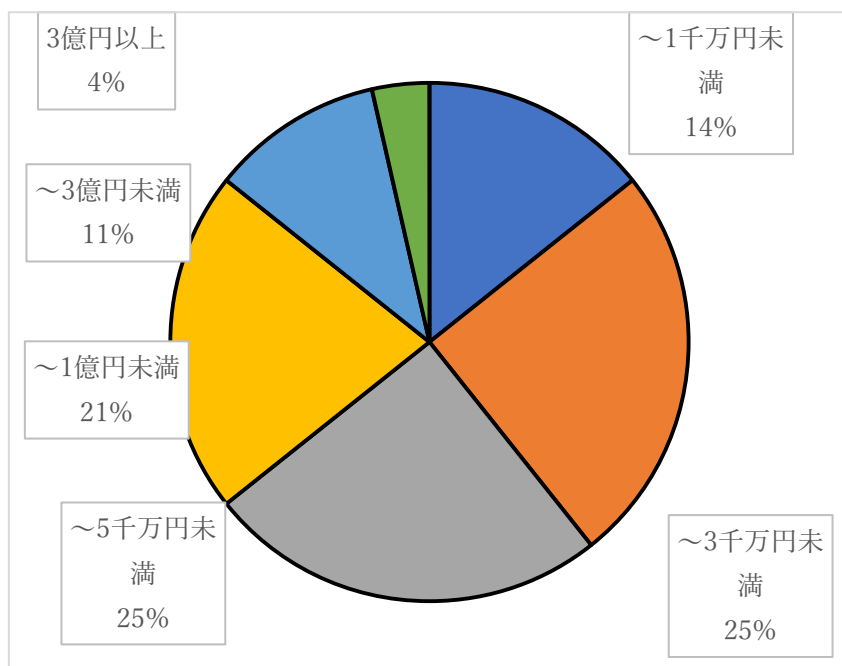


図1 売上規模による事業者の調査割合

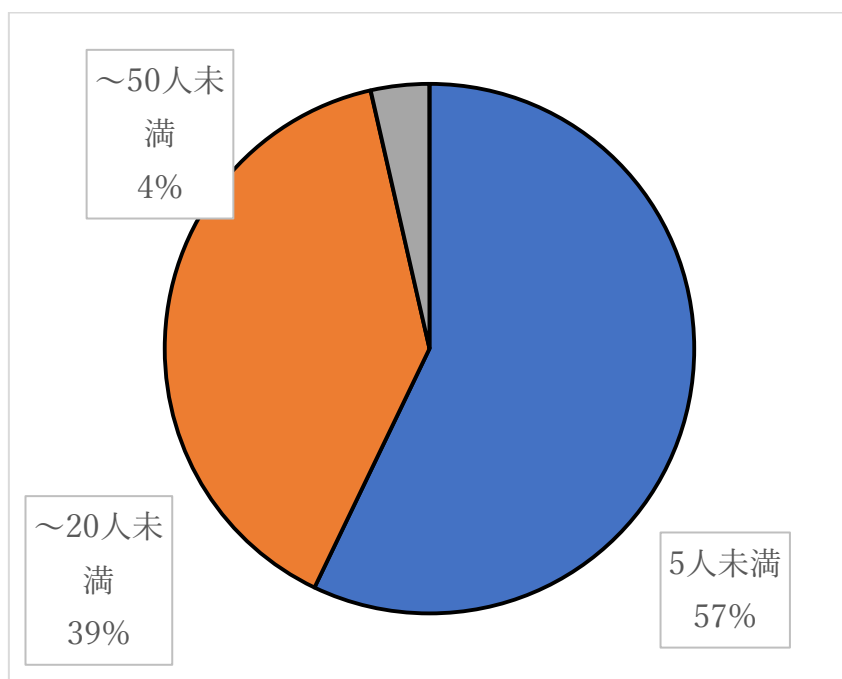


図2 従業員規模による事業者の割合

1. 景況感について

今回の調査では、10月～12月という集客時期であるにもかかわらず、サービス業のD I低下が目立ちます。人材確保難からくる販売機会損失（チャンスロス）による売上低下もあるのではないかとこの可能性もぬぐいきれません（来店する顧客はいるが、人手不足により対応できない）。

建設関連業が好調です。大子町では建設関連業が景気を押し上げている傾向にあります。また、製造業と小売業に若干の回復傾向が見られます。建設関連の好調が小売業に影響をあたえているのでしょうか？可能性として考えられます。特に小売業の粗利益の項目が改善されています。物価の上昇が市場に受け入れられてきたのではないかと推測します。

表1 平成30年10月～12月間のD I※1

	売上高	販売単価	粗利益	資金繰り	人材確保	景況感	風評被害
製造業 (食品加工含む)	33.3	16.7	0.0	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	0.0
建設関連業	33.3	0.0	▲ 16.7	0.0	16.7	16.7	0.0
小売業 (卸売業含む)	▲ 44.4	0.0	0.0	▲ 11.1	0.0	▲ 22.2	▲ 11.1
サービス業 (飲食、観光含む)	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 20.0	0.0
全業種計	▲ 9.7	0.0	▲ 9.7	▲ 12.9	▲ 9.7	▲ 16.1	▲ 3.2

※1 D I (Diffusion Index : 業況判断指数)

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものを%ポイントで表した景気判断指数の一つです。プラスは良くなった。マイナスは悪くなった。と、とらえることができます。

大子町における、業種別、項目別のD Iの推移を以下に示します。

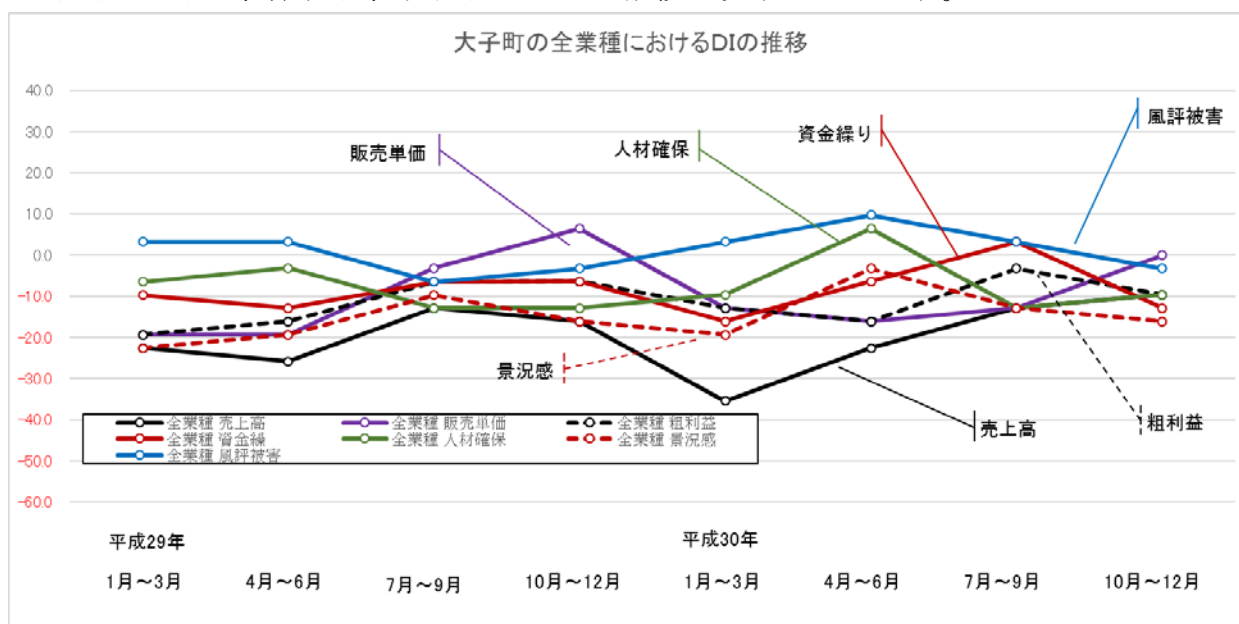


図1 大子町の全業種におけるD Iの推移

平成30年10月～12月においては、風評被害の影響もなくなり、売上、粗利益、資金繰りなど概ね好調のようです。しかしながら、人材確保の不安感からでしょうか？ 景況感が下がったと訴える事業者が増えてきたように感じます。

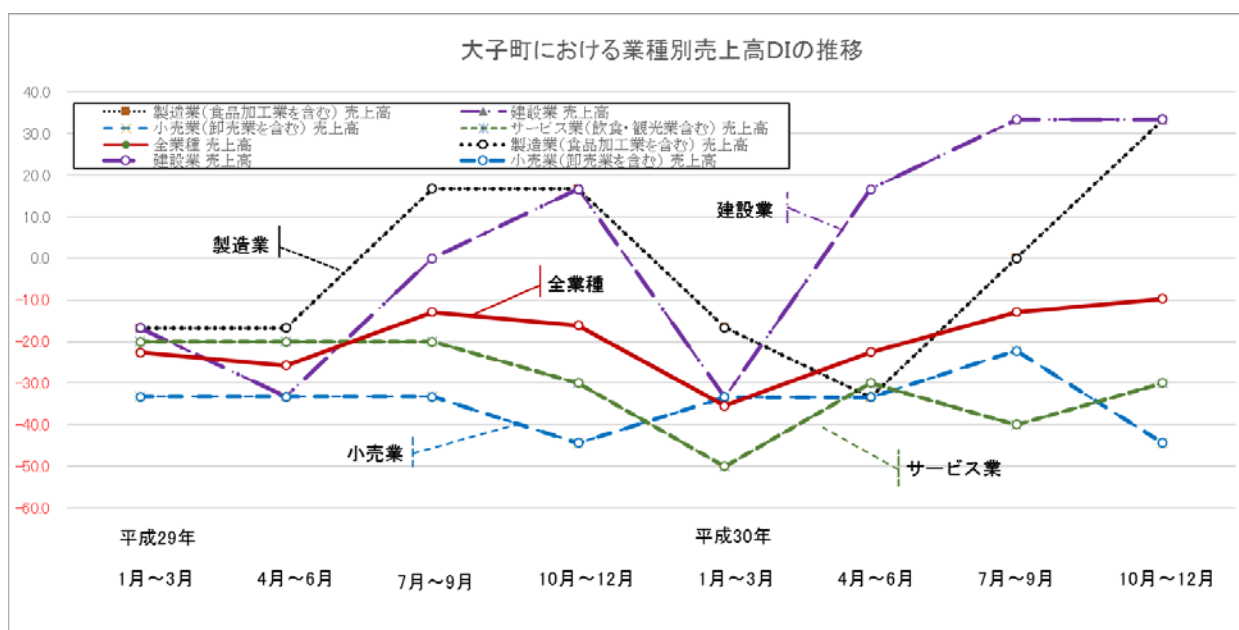


図2 大子町における業種別売上D Iの推移

平成29年暮れから平成30年明けにかけて景気の中だるみがありました。現時点では、建設業および製造業の売上が好調のようです。小売業とサービス業の低迷が著しく、どのように売上を上げていくのか、個店としての努力が求められます。

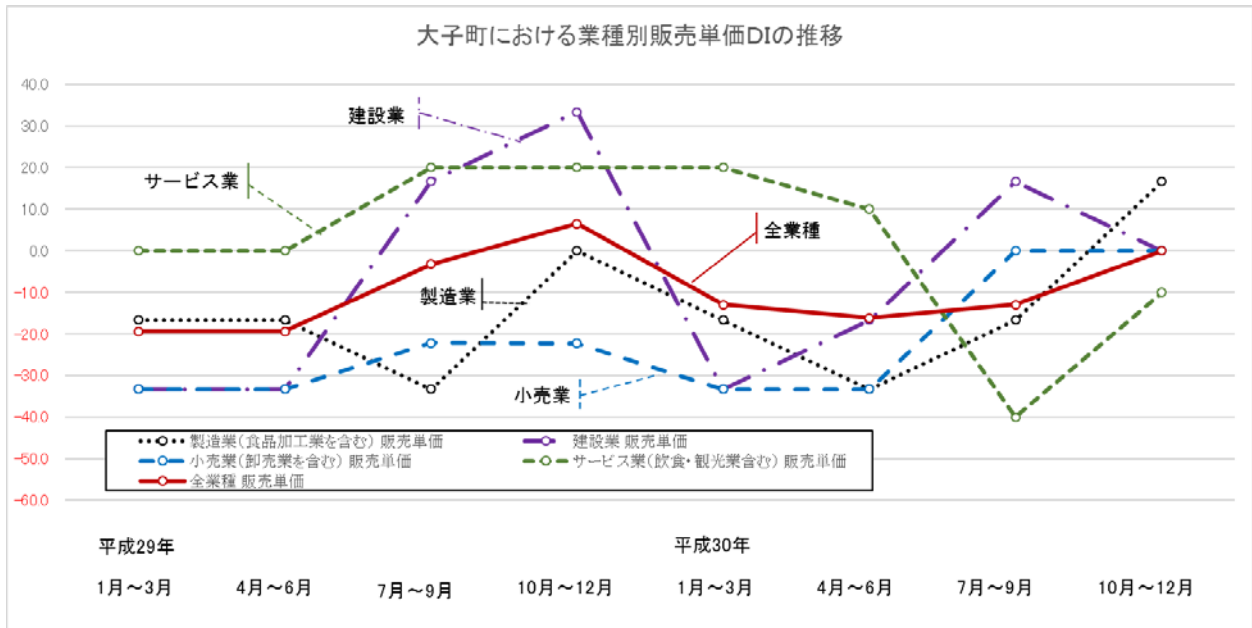


図3 大子町における業種別販売単価益DIの推移

平成29年10月～12月にかけて販売単価の上昇がすべての業界で見られるようになりました。平成30年後半に、サービス業の販売単価が失速気味となりましたが、現在は全体的に値上げによる顧客の納得感がでてきたように思われます。

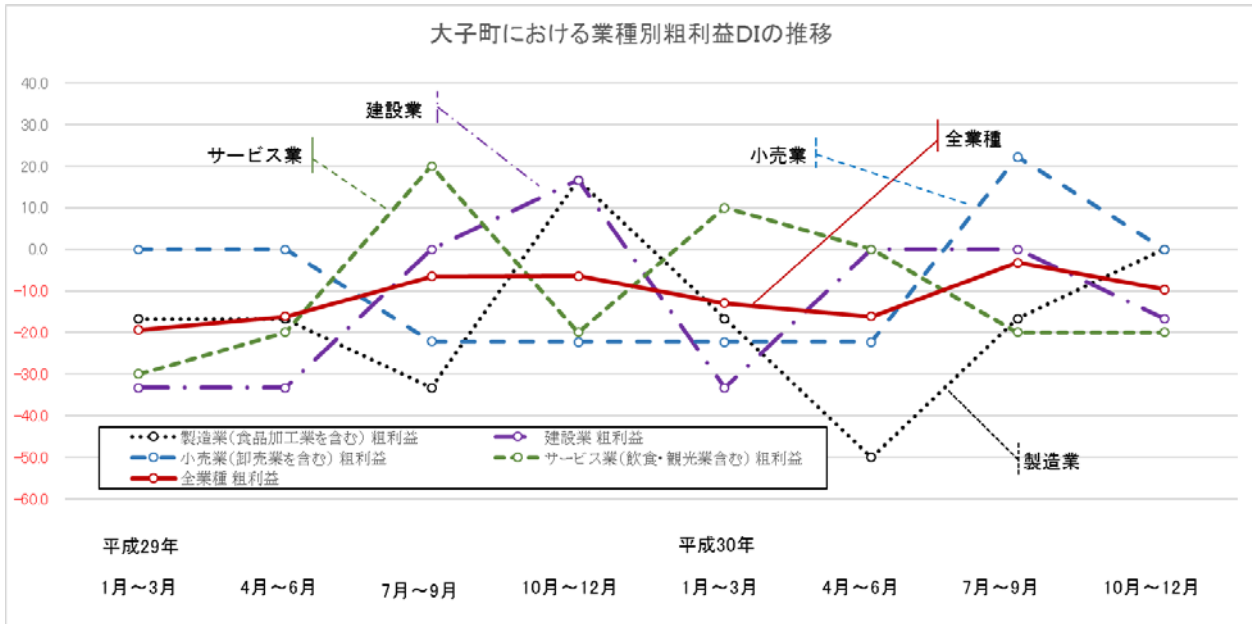


図4 大子町における業種別粗利益DIの推移

建設業は売上が伸びている割には、粗利益がよくなったと感じる事業者は少ないように思えます。反面、小売業者は、売上が伸び悩んでいる割には、粗利益が改善されてる傾向にあります。

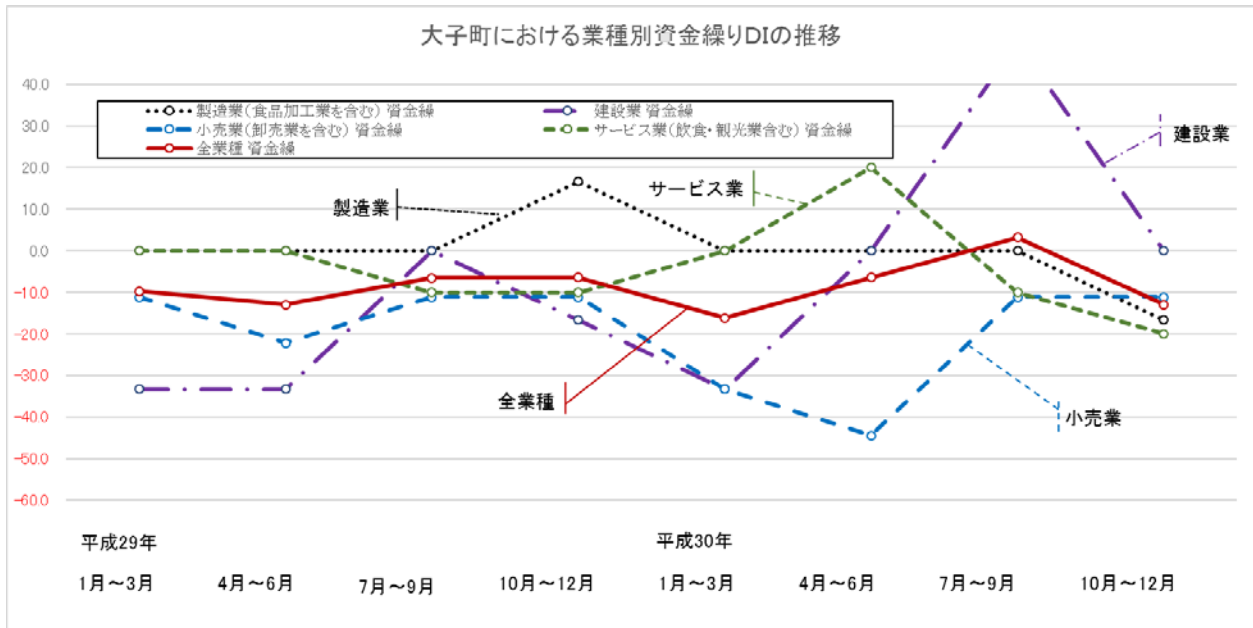


図5 大子町における業種別資金繰りDIの推移

資金繰りに関しては、一時期、建設業が乱高下を繰り返しましたが、業種を問わず落ち着いてきたという傾向になりました。

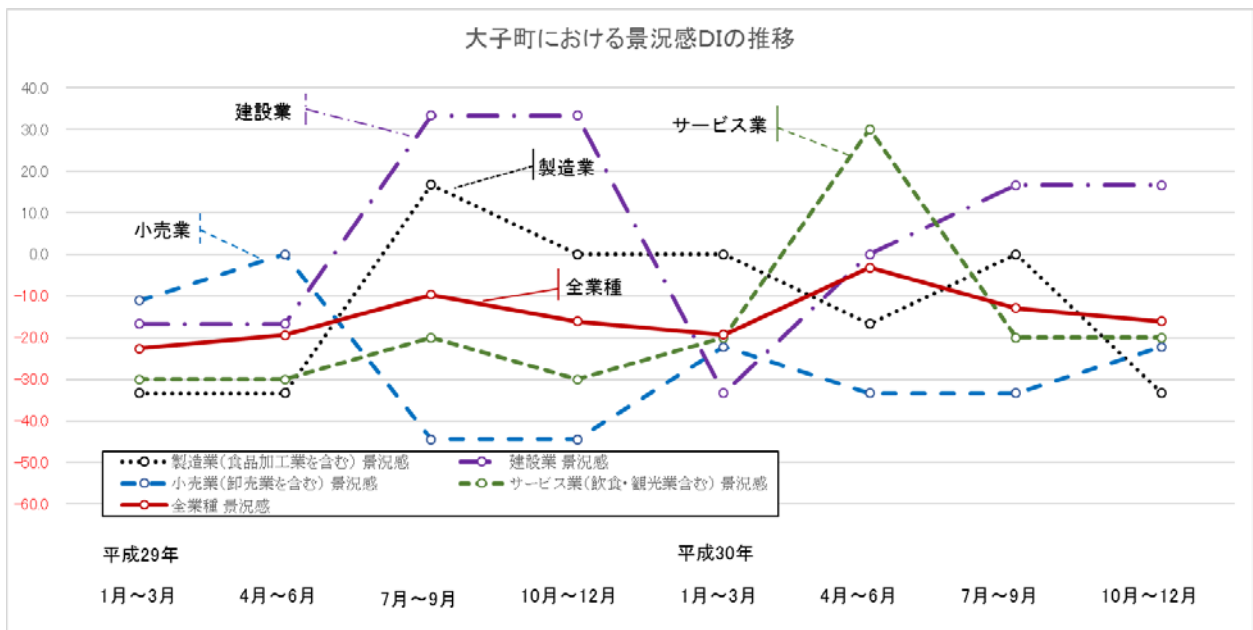


図6 大子町における景況感DIの推移

景気が良くなったかどうかを見る指標です。年末にきて、建設関連が好調のようです。一時期サービス業の景況感がよかったのですが、平成30年の後半は低迷が続いています。

また、売上高、販売単価、粗利益などに高評価をしていた小売業者は、市場を見る目が厳しいようです。

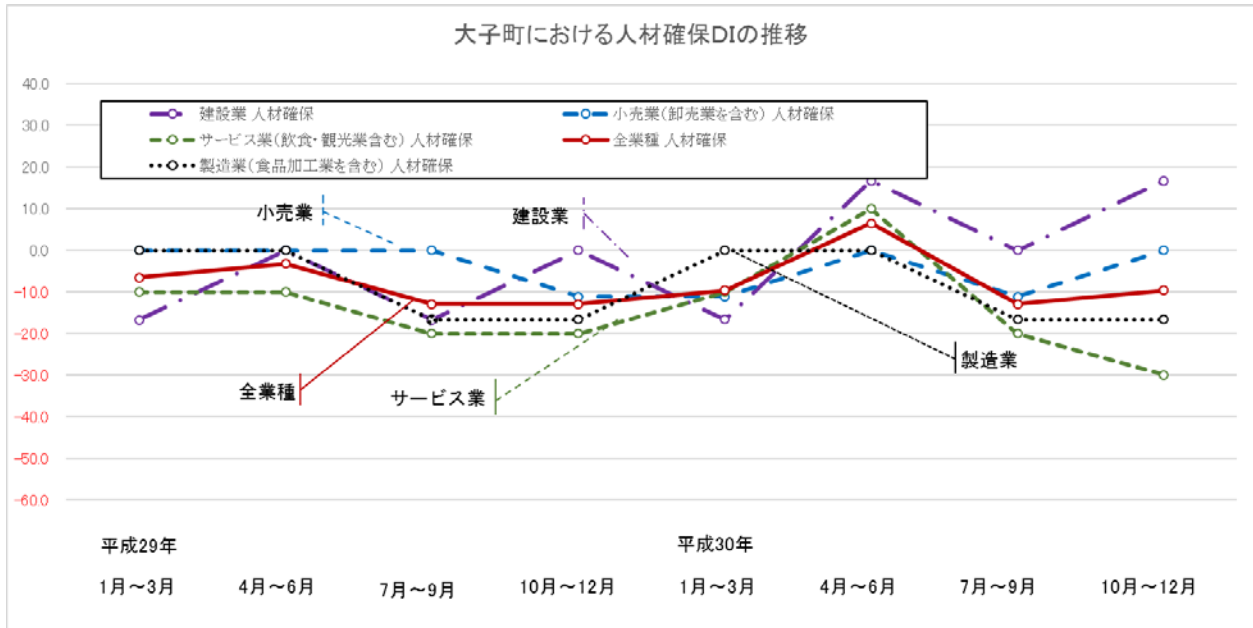


図7 大子町における人材確保DIの推移

人手不足が業種により分かれてきたのではないかと懸念があります。建設業は人手不足が解消し、サービス業や製造業は人手不足が進んでいる傾向にあります。

また、小売業に関しては、売上が伸びないために、規模の拡大がない、つまり、人手が不要になっているのではないかと推測します。

2. 設備投資に関して

平成30年4月～6月期での設備投資が著しく減少しました。平成29年暮れの一時的な景気低迷が原因ではないかと思われます。しかしながら、平成30年に入ってから、設備導入を検討する事業者が増えてきました。

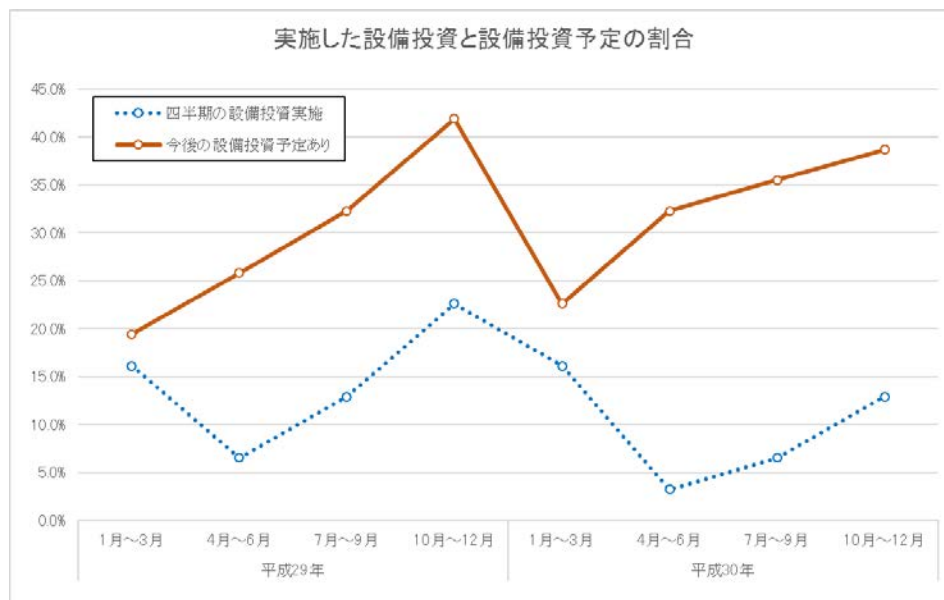


図8 今後設備投資を行う予定のある事業者と、各四半期に設備投資を実施した割合

3. 小規模事業者の課題意識について

調査開始当初と1年後、直近の課題意識の違いを比較してみました。

「需要の停滞・売上の伸び悩み」、「製品単価の低下・上昇難」を課題とする事業者が減少する傾向にあるのに対して、「仕入れ・原材料価格の上昇・入手難」「生産設備の不足・老朽化」「従業員の確保難」を課題とする事業者が増えてきています。明らかに、経済全体の動きが、今までとは異なる方向へ移動していることが伺えます。

イメージとしては、需要が上昇傾向になり、ビジネスチャンスが増えたと認識する事業者が増えたが、物価の上昇、人手不足が足枷になっているという状況が伺えます。また、長期の景気低迷により設備の老朽化（設備を長い間改善できなかった）が共通の課題となっているようです。

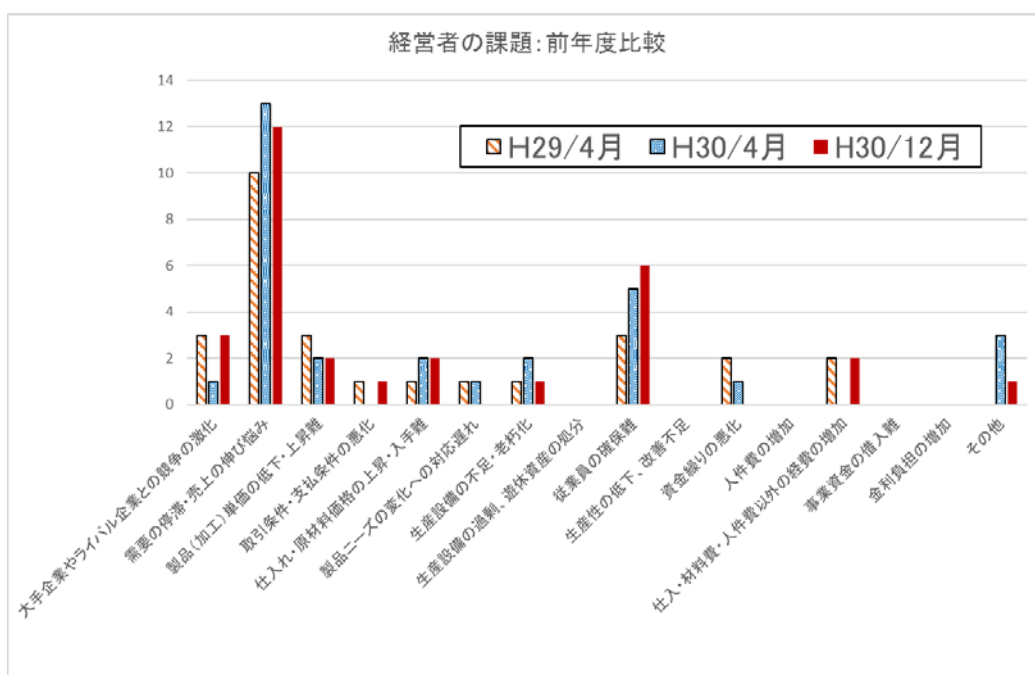


図9 大子町における小規模事業者の課題意識